

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別計画 令和7年度	◆市民参加プログラム等に基づく市民参加及び協働の実践 ◆パブリック・コメント手続条例等の適切な運用 ◆市民参加手法等の見直し検討(検討結果を踏まえた取組の実施)
基本的取組	1-1	参加と協働による共創のまちづくりの推進		
プラン	1	市民参加と協働の推進		
担当課	企画経営課、協働推進課、関係各課			

参加と協働の実践を重ねるとともに、調布市審議会等の会議の公開に関する条例や、調布市パブリック・コメント手続条例の適切な運用を図ります。また、市民における多様な活動形態や社会状況の変化を踏まえた市民参加手法等の見直しも視野に、市民参加の取組における創意工夫に継続して取り組みます。

※ 東京都スマートサービス実装促進プロジェクト…スタートアップ企業等が保有する先端技術を都内自治体等で活用し、都民の利便性向上や地域課題の解決を図る東京都の事業。

前 期		後 期		総 括
【取組計画】(PLAN)		【取組計画】(PLAN)		【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】 (CHECK・ACTION)
○パブリック・コメント手続条例及び審議会等の会議の公開に関する条例の適切な運用を図るとともに、実践を踏まえた課題整理に基づく創意工夫や運用改善に継続して取り組みます。 ○新入職員等を対象とした職員研修を実施し、参加と協働の実践において必要な知識・技能の習得を図ります。 ○市民参加・協働実践状況調査により、市民参加手続と協働事業の実践状況を把握し、具体的な成果や課題等を検証するとともに、市民参加・協働実践状況報告書として取りまとめて公表します。公表に当たっては、市民に分かりやすく伝えることを念頭に、報告書に必要な情報を整理します。		○市民参加推進研修等の職員研修を実施し、職員の参加と協働に対する知識の向上、実践的な能力の向上を図ります。 ○パブリック・コメント手続条例及び審議会等の会議の公開に関する条例の適切な運用を図ります。 ○市民参加推進協議会を開催し、各部における市民参加・協働の推進に係る課題を踏まえた取組の検討・協議を行うとともに、各部における好事例を共有することで、市民参加・協働の更なる創意工夫につなげていきます。		年次評価 A(計画どおりに進捗)
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)		【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)		
○新任職員及び新任係長職を対象とした各研修を実施し、参加と協働に関する職層に応じた知識の習得、理解の促進を図ることができました。 ○時間や場所にとらわれない新たな市民参加手法の試行として、オンラインの市民参加プラットフォーム「ちょうふLiqld(リクリッド)」を開設しました。 ○市民参加・協働実践状況調査において、こども基本法及び調布市子ども条例の趣旨を踏まえ、子ども・若者、子育て当事者の意見を聞く取組や意見の反映の現状等を把握し、更なる効果的な取組につなげていくこととしました。また、協働の取組のうち、産学官連携の現状を把握する調査項目を新たに設け、産学官連携に関する現状の詳細を把握することで、参考となる事例の他部署への展開を図りました。		○市政経営の基本的な考え方である「参加と協働のまちづくり」の推進に向け、その理念と重要性を理解するとともに、様々な分野で活動する市民等の思いや活動について知り、市民を交えたグループワークを通じて、協働のプロセスを体験することを目的に市民参加推進研修を実施しました。実際に市民活動を行う市民等とグループワークに取り組むことで、市民参加と協働の取組に関する意識の向上を図りました。 ○パブリック・コメント手続条例及び審議会等の会議の公開に関する条例の適切な運用に努めるとともに、パブリック・コメント手続においては、インターネット回答フォームを活用し、幅広い市民からの意見聴取に努めました。 ○市民参加推進協議会を開催し、各部署における市民参加の取組に関する情報共有を行いました。また、「東京都スマートサービス実装促進プロジェクト※」と連携し、市が市民参加や共創に取り組むに当たっての組織としての強みや改善点を把握するアセスメントの取組について、その有効性の検証を兼ねて試行的に実施しました。 ○実証運用中のオンラインプラットフォーム「ちょうふLiqld(リクリッド)」について、「(仮称)調布市みらい共創ビジョン」の策定過程において、対面型のワークショップと連動させた活用など検証を進めました。		
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)				
【後期における取組の方向性】(ACTION)				
○市民参加・協働実践状況調査により把握した具体的な成果や課題等を検証し、幅広い市民意見の把握につながる創意工夫や運用改善を踏まえた市民参加と協働の仕組みづくりにつなげていきます。 ○市民参加推進研修等の職員研修を実施し、職員の参加と協働に対する知識の向上、実践的な能力の向上を図ります。 ○市民参加推進協議会を開催し、各部における市民参加・協働の推進に係る現状や好事例などを共有するとともに、その内容を各部における参加と協働の実践において生かすなど、市民参加と協働の取組における創意工夫につなげていきます。 ○パブリック・コメント手続条例及び審議会等の会議の公開に関する条例について、適切な運用を図ります。				

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別計画 令和7年度	◆多様な主体との連携の推進 ◆調布スマートシティ協議会における取組の推進 ◆多様な主体との連携による地域社会のデジタル化の推進
基本的取組	1-1	参加と協働による共創のまちづくりの推進		
プラン	2	多様な主体との連携による共創の推進		
担当課	企画経営課、デジタル行政推進課、関係各課			
地域課題の解決に向け、データの利活用をはじめとした、産学官民の連携による調布スマートシティ協議会における活動や、デジタル技術を活用した市民との協働(シビックテック)を通じた共創の取組を推進します。また、調布地域情報化推進協議会等の活動支援などを通じた、これまでの地域情報化の取組を踏まえた地域社会のデジタル化に資する取組を推進します。				

前 期	
【取組計画】(PLAN)	
○企業、大学、NPO、市民団体等、多様な主体との連携や市民との協働を通じた共創の取組を推進し、市が抱える地域課題の解決につなげます。 ○調布スマートシティ協議会における取組を推進し、調布市民の生活の豊かさや、地域の持続的成長に繋がる新しいサービス・事業を創出することで、市の社会課題の解決を目指します。 ○市としてスマートシティの取組に関する方向を見定めるため、令和8年度の「(仮称)調布市スマートシティビジョン」策定に向け、協議会加盟団体と調査研究を行うプロジェクトチームを組成する。 ○令和7年度は、市域の人流活性化に関する実証事業に取り組みます。 ○地域情報化に関する活動を行っている多様な主体との連携(地域情報化推進事業、情報共有、意見交換等の実施)を推進します。 ○東京都等の事業を活用したデジタルデバйд対策を実施します。 ○地域情報化推進連絡会議等を活用した庁内横断的な連携(情報共有、意見交換等の実施)を推進します。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○調布スマートシティ協議会において、協議会として市民の現状を把握し、今後の活動の方向を検討するため、地域幸福度(Well-Being指標)アンケート調査を実施し、得られた結果を分析するためのプロジェクトチームを設置しました。また、「お出かけ情報サービス」による市内回遊性の向上に向けた実証事業に取り組みました。 ○「(仮称)調布市スマートシティビジョン」策定に向け、オンラインプラットフォーム「ちょうふLiqid(リクリッド)」と対面型のワークショップを組み合わせながら、市民意見の把握に取り組みしました。 ○調布地域情報化推進協議会に参加し、「地域社会のデジタル化」に関する意見交換を実施しました。 ○デジタルデバйд対策として、国や東京都の事業を活用した高齢者等を対象するスマートフォン講座の開催支援を行いました。	
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)	○
【後期における取組の方向性】(ACTION)	
○調布スマートシティ協議会の活動に継続して取り組みます。 ○「(仮称)調布市スマートシティビジョン」策定に向け、引き続き、「ちょうふLiqid(リクリッド)」の活用及び対面型の市民参加機会の確保に取り組みます。 ○地域情報化に関する活動を行っている多様な主体との連携(地域情報化推進事業、情報共有、意見交換等の実施)を推進します。 ○国や東京都等の事業を活用したデジタルデバйд対策を実施します。 ○地域情報化推進連絡会議等を活用した庁内横断的な連携(情報共有、意見交換等の実施)を推進します。	

後 期	
【取組計画】(PLAN)	
○企業、大学、NPO、市民団体等、多様な主体との連携や市民との協働を通じた共創の取組を推進し、市が抱える地域課題の解決につなげます。 ○調布スマートシティ協議会における取組を推進し、調布市民の生活の豊かさや、地域の持続的成長に繋がる新しいサービス・事業を創出することで、市の社会課題の解決を目指します。 ○「(仮称)調布市スマートシティビジョン」策定に向け、新しい市民参加手法の活用に取り組みつつ、分野横断的な視点で検討を進める。 ○人流活性化に関する実証事業について、事業成果の検証を行います。 ○地域情報化に関する活動を行っている多様な主体との連携(地域情報化推進事業、情報共有、意見交換等の実施)を推進します。 ○東京都等の事業を活用したデジタルデバйд対策を実施します。 ○地域情報化推進連絡会議等を活用した庁内横断的な連携(情報共有、意見交換等の実施)を推進します。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○調布スマートシティ協議会の幹事会を年間で3回開催したほか、プロジェクトチームによる活動や、Well-Being指標に関する勉強会を外部講師を招き協議会構成団体と市職員合同で実施しました。 ○調布スマートシティ協議会では、「お出かけ情報サービス」のサービス提供を12月に終了し、実証事業から得られた成果について総括しました。 ○策定の過程でいただいたご意見を踏まえ、「(仮称)調布市スマートシティビジョン」から名称を改め、「(仮称)調布市みらい共創ビジョン」とし、基本構想・基本計画に掲げる「共創のまちづくり」を効果的に推し進めていくための全庁的な指針として、その素案を取りまとめました。また、令和8年度第1四半期での策定に向け、パブリック・コメント手続きを開始しました。 ○毎月開催される調布地域情報化推進協議会に参加し、情報提供等の支援や地域情報化に関する様々な意見交換を実施しました。また、「調布市内シニア向けスマホ講習会主催者報告会・意見交換会」や市民団体・シニア世代向け生成AIセミナー(参加者25人)の開催を支援し、市民による地域情報化の推進につなげました。 ○高齢者向けスマートフォン教室を開催し、デジタル機器等に不慣れな方への支援を行いました。 ○市民、事業者、教育機関等及び行政の協働による地域情報化を推進するため、庁内会議である地域情報化推進連絡会議において、関係各課における地域情報化関連事業に関する取組について情報共有・連携を図りました。また、同会議には、調布地域情報化推進協議会の事務局(調布市地域情報化コンソーシアム)が出席し、本協議会において取りまとめた、令和7年度地域情報化に関する事業報告について情報共有を図りました。	

総 括	
【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】(CHECK・ACTION)	
年次評価	A(計画どおりに進捗)
○調布スマートシティ協議会では、今年度実施した地域幸福度(Well-Being指標)アンケート調査や勉強会を通じて、今後の協議会の活動の方向や各構成団体の参加目的について言語化を図り、より効果的な協議会活動につなげていくことの認識が共有されました。 ○「お出かけ情報サービス」実証事業では、地域のイベントや飲食店、施設など多種多様な情報が一つのデジタルマップとして一元化されることの価値について、今後につなげる示唆を得ることができました。市としての取組にもつながるよう、今後に向けた検討を継続して参ります。 ○「(仮称)調布市みらい共創ビジョン」については、市民の参加はもとより、庁内各部署、また、企業、大学など関係する多様な主体との意見交換を重ねる中で、素案を取りまとめることができました。次年度はパブリック・コメントの結果を踏まえ、ビジョンを策定するとともに、次期基本計画の策定に取り組み中で、ビジョンに掲げた「共創のまちづくり」を効果的に推し進めるための仕組づくりなどについての検討に取り組みます。 ○毎月開催される調布地域情報化推進協議会の活動支援や、オンライン手法を活用した共催事業に取り組み、引き続き、多様な主体と連携した地域情報化を推進します。 ○調布市デジタル化総合戦略に基づく取組の推進に当たっては、市民、事業者、教育機関等と連携・協働を図っていきます。	

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別計画 令和7年度 ◆市民活動支援センターによる市民活動団体への支援 ◆地域コミュニティサイトを活用した効果的な情報発信 ◆市民活動団体等と連携・協働したイベントの実施による市民参加の促進
基本的取組	1-2	共創の推進のための環境整備	
プラン	3	市民活動・地域コミュニティ活動に関する支援の推進	
担当課	協働推進課		

市民活動・地域コミュニティ活動の更なる活性化に向け、市民活動支援センターにおける市民活動団体の支援や多様な市民活動団体等が連携・協働して企画・運営するイベントを実施します。また、市民活動への参加のきっかけが生まれるような情報発信に取り組みます。

※ワールドカフェ…カフェのようなリラックスした雰囲気の中で、メンバーを定期的にシャッフルしながら少人数で対話を行う会議手法。参加者全員の意見やアイデアを共有し、新たな気づきや集合知を生み出すことを目的とする。

前 期	
【取組計画】(PLAN)	
○市民活動支援センター運営委員会や定例会議への参加等を通して、運営団体(調布市社会福祉協議会)と継続的な意見交換を行います。 ○市民活動支援センターの利用者ニーズを踏まえ、施設機能の充実に取り組みます。 ○市民活動で活躍する人材を養成・発掘するため、地域コミュニティを取り巻く現状や課題を検証し、地域活動団体の要望等を踏まえた地域人材養成講座の実施を検討します。 ○市民交流事業である「調布まち活フェスタ」について、市民参加と活動団体の更なる交流の促進に向け、実行委員会と協議のうえ、市民活動団体の支援にもつながる事業の実施に取り組みます。 ○市制施行70周年事業「(仮称)調布これからサミット」の実施に向け、若者世代を中心に、今後のまちづくりの担い手の創出・育成につながるよう、企画内容を検討します。 ○地域活動への更なる参加と理解促進に向けて、「じよいなす」や「ちょみっと」など、様々な広報媒体の特性を効果的に活用した情報発信に取り組みます。とりわけ「じよいなす」は、市制施行70周年事業に位置付け、地区協議会をテーマに当該活動の一層の周知啓発が図られるよう紙面内容・発行方法等の検討を進めます。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○市民活動支援センター運営委員会への出席や定例会議の継続実施により、運営団体との情報共有と、事業実施時における連携を図りました。 ○コミュニティルームの適切な維持管理を行うとともに、市民活動支援センターにおける施設のバリアフリー化に向けた検討を行いました。 ○市民活動に参加する次世代の人材を発掘することを目的とした地域人材養成講座の検討を進めました。 ○市制施行70周年事業「KIKKAKE(キッカケ)カフェ」の実施に向け、若者を含め多様な世代の交流を通じ、今後の市民活動の担い手の創出・育成につながるよう、企画内容の検討及び準備を進めました。 ○地域活動情報誌「じよいなす」では、市制施行70周年記念号として、地区協議会をテーマに、全市域への取組周知に加え、未設立地区での設立に向けた機運醸成に寄与するよう、紙面の検討及び発行準備を進めました。 ○地域コミュニティサイト「ちょみっと」について、活動レポート、居場所マップなどコンテンツの充実に取り組んだほか、地域活動情報紙「じよいなす」と連動し、地区協議会特集の掲載準備を進めました。 ○第12回調布まち活フェスタの実行委員会を発足し、令和7年10月の開催に向けて準備に取り組みました。	
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)	○
【後期における取組の方向性】(ACTION)	
○市民活動支援センターとの継続的な意見交換を進め、市民活動・地域コミュニティ支援に取り組みます。 ○「ちょみっと」や「じよいなす」などの広報媒体を活用した、市民活動等の効果的な情報発信に取り組みます。 ○市制施行70周年事業「KIKKAKE(キッカケ)カフェ」をはじめ、多様な事業を通じて、市民活動に対する理解促進、今後の担い手の創出・育成に向けた取組みを推進します。	

後 期	
【取組計画】(PLAN)	
○市民活動支援センター運営委員会や定例会議への参加等を通して、運営団体(調布市社会福祉協議会)と継続的な意見交換を行います。 ○市民活動支援センターの利用者ニーズを踏まえ、施設機能の充実に取り組みます。 ○市民活動で活躍する人材を養成・発掘するための地域人材養成講座を実施します。 ○市民参加と活動団体の更なる交流の促進につながる「調布まち活フェスタ」を開催します。 ○様々な団体等との協働のもと、若者を含め多様な世代が交流する市制施行70周年事業「KIKKAKE(キッカケ)カフェ」を実施します。 ○地域活動への更なる参加と理解促進に向けて、「じよいなす」や「ちょみっと」など、様々な広報媒体の特性を効果的に活用した情報発信に取り組みます。「じよいなす」は市制施行70周年記念式典をはじめ、多くの周年事業が開催される10月に発行することで、紙面の周知はもとより広報誌の一層のPRに取り組みます。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○市民活動支援センターの運営委員会や定例会議への参加等を通して、運営団体(調布市社会福祉協議会)と継続的な意見交換を行いました。 ○市民活動支援センターの施設機能の充実を図るため、コミュニティルームの適正な運用を継続しました。 ○市民活動で活躍する人材を養成・発掘するため、地域人材養成講座を2回実施しました。 ○地域活動情報誌「じよいなす」は、地区協議会をテーマに、新たに設立された二小地区ネットワークへの取材や石原小、第三小、多摩川小地区の役員による座談会などを企画し、地域の声を中心に地区協議会の取組を掲載することで、市域全域はもとより、とりわけ未設立地区である深大寺地区への制度の理解促進に努めました。 ○「調布まち活フェスタ」を市制施行70周年の記念式典と同月の10月に開催し、記念の年を盛り上げるとともに、「ちょうふ彩映祭(旧よさこい)」及び「ちょうふチャリティウォーク」とコラボレーションすることで市民活動への理解を広めることに努めました。 ○市制施行70周年事業として、調布の将来について考える市民交流事業「KIKKAKE(キッカケ)カフェ」を開催しました。調布の未来を思い描きながら、今後の自身の活動の新たな一歩を踏み出すキッカケになるよう、ワールドカフェ※形式のグループワークを通じ、市民同士による多世代交流を図りました。 ○地域コミュニティサイト「ちょみっと」は、「居場所マップ」の充実や新たに若者応援特集記事を掲載し、若者や現役世代を中心とした幅広い市民に向けた情報発信に取り組みました。	

総 括	
【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】(CHECK・ACTION)	
年次評価	A(計画どおりに進捗)
○市民活動支援センターにおける市民活動団体の支援やイベントの実施に加え、「ちょみっと」や「じよいなす」などの広報媒体を活用した効果的な情報発信に取り組むことで、市民活動・地域コミュニティ活動の活性化につなげることができました。 ○「調布まち活フェスタ」については、これまでの成果や課題を踏まえ、同様の市民交流事業である「調布えんがわフェスタ」との統合を視野に、これまで以上に市民参加の促進と団体同士のつながりが生まれる事業として再編成を検討し実施します。 ○地域活動への更なる参加と理解促進に向けて、「じよいなす」や「ちょみっと」など、様々な広報媒体の特性を効果的に活用した情報発信に取り組みます。 ○地域人材養成講座については、地域コミュニティを取り巻く現状や課題を検証したうえで、地域活動団体の要望等を踏まえた講座を開催します。	

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別計画	◆ふれあいの家の運営方法の簡素化・効率化に向けた取組の検討・実施
基本的取組	1-2	共創の推進のための環境整備	令和7年度	
プラン	4	ふれあいの家の管理・運営方法の検討		
担当課	協働推進課			

ふれあいの家について、施設管理における課題や施設利用者のニーズを把握しながら、効率的な運営方法について検討を行います。

前 期	
【取組計画】(PLAN)	
○現指定管理期間において、ふれあいの家運営委員会と連携を図りながら、課題に対する対応策や必要な支援を行っていきます。 ○現在、7箇所のふれあいの家で運用しているスマートロックの追加設置に向けて、未設置のふれあいの家運営委員会に対し、業務の負担軽減のほか利用者の利便性向上につながるツールとして活用を提案を行います。 ○インターネット施設予約システムをはじめとする運営方法のデジタル化の検討のため、他市の類似施設の調査をするなどの情報収集に努めるとともに、モニタリング実地調査において情報共有を行い、運営委員会の意見・要望を確認します。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○ふれあいの家のモニタリング実地調査を実施し、各ふれあいの家運営委員会の運営状況や課題、利用者ニーズについて把握し、必要な支援を行いました。 ○モニタリング実地調査において、施設のインターネット予約システム導入について意見交換を行い、各ふれあいの家運営委員会の意見・要望を確認しました。 ○インターネット施設予約システムの導入に向けた検討のため、類似施設がある自治体への視察を行い、デジタル化の手法や施設運営についてヒアリングを実施しました。 ○スマートロックの追加設置に向けて、未設置のふれあいの家運営委員会に対し、業務の負担軽減のほか利用者の利便性向上につながるツールとして活用を提案を行いました。	
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)	○
【後期における取組の方向性】(ACTION)	
○他自治体の視察結果や利用者ニーズ、運営委員会の意向を踏まえ、施設のインターネット予約システムの導入の在り方について整理します。 ○ふれあいの家運営委員会と情報共有を図りながら、施設の安全性及び利便性の向上に取り組めます。	

後 期	
【取組計画】(PLAN)	
○視察結果等を踏まえ、予約システム導入にあたっての課題整理を行うとともに、ふれあいの家代表者会議において課題を共有したうえで、下期に実施するモニタリング調査で導入に向けた個別の意向確認を行います。 ○施設の安全性確保の取組として6施設に設置している防犯カメラについて、追加設置を行います。 ○スマートロックの追加設置に向けて、未設置のふれあいの家運営委員会に対し個別に活用提案をします。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○前期に実施したモニタリング実地調査を踏まえ、2回目の実地調査において各ふれあいの家運営委員会の運営状況や課題を把握し、対応策の提案や必要な支援を行いました。 ○施設のインターネット予約システム導入について、令和7年度はアンケートの実施結果を踏まえ、他市のコミュニティ施設の視察を行い、近隣自治体の現状の把握を行いました。令和7年度下半期のモニタリングでは、導入の意向に加え、現在の運営方法について改めて確認を行いました。 ○防犯カメラについては既存の6箇所に加えて新たに1箇所に設置し、施設の安全性の確保に努めました。 ○スマートロックの追加設置に向けて、未設置のふれあいの家運営委員会に対し個別に活用提案を行うとともに、各施設の運用状況に応じた導入可能性の検討を行いました。	

総 括	
【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】(CHECK・ACTION)	
年次評価	A(計画どおりに進捗)
○ふれあいの家の運営における課題について、モニタリング実地調査などで運営委員会と情報共有を図ることで、安定した管理運営に向けた具体的な対策案を提案することが出来ました。 ○インターネット施設予約システムをはじめとする運営方法のデジタル化については、モニタリング実地調査で把握した運営委員会の意向を踏まえ、施設利用者の利便性や運営委員会の業務効率化など多角的な視点から検討した結果、今期の指定管理期間における導入は見送りですが、効果的な運営に向けて、運営委員会と意見交換しながら引き続き検討します。 ○今後も、年2回実施するモニタリング実地調査などで、運営委員会と意見交換を行い、施設の効率的な管理運営や安全性の確保、利用者の利便性向上に向け、清掃等の外部委託や受付方法の見直しなどの提案を行い、利用者ニーズや運営委員会の負担を考慮した受付方法の検討、スマートロックや防犯カメラの設置などを推進します。	

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別取組	◆市報の掲載記事の見直し
基本的取組	1-3	市政情報の積極的な提供		◆市ホームページの機能向上に向けた検討
プラン	5	積極的な市政情報の発信	令和7年度	◆多様な広報メディアを活用した効果的な情報提供及び調布のまちの魅力発信
担当課	広報課			◆災害対応に備えた訓練
				◆職員への研修等を通じた意識醸成の取組の検討、実施

市報の掲載記事の見直しや市ホームページのリニューアルを進めるとともに、SNS等も含めた多様な広報メディアを有機的に連動させ、多くの市民に効果的な情報提供、魅力発信を行うほか、災害時に迅速な情報発信が可能となるよう、継続的に訓練を行います。また、効果的な市政情報の発信に向けて、職員に対する研修等を実施します。

前 期	
【取組計画】(PLAN)	
○市制施行70周年記念式典に向けて、要覧、映像の完成に向けた作業を進めます。 また、令和6年度に作成した、市制施行70周年記念ロゴを活用した記念グッズなどを作成し機運醸成に取り組みます。 ○ドローンで作成した空撮映像を市公式YouTubeなどで公開します。 ○時宜に応じた特集ページを設けて調布の魅力発信につなげるほか、より分かりやすい市政情報の提供を行います。 ○様々な広報媒体を活用し積極的に情報発信します。 ○多様な能力を持つ職員などを活用した動画を市公式YouTubeチャンネルで配信することで、市の魅力発信に取り組みます。 ○報道機関に対して積極的な情報提供を継続し、調布の話題が多く取り上げられるように、創意工夫したアプローチを実践します。 ○調布駅前のデジタルサイネージの設置に向けて関係部署と協議を進めます。 ○市ホームページでの画像オープンデータの取組を継続し、市の魅力発信につなげます。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○市制施行70周年記念式典での記念映像の放映に向け、台本作成や撮影を行いました。また、記念要覧の機能を持った「地球の歩き方 調布市」の表紙デザインを決定するとともに、記念ロゴを活用した缶バッジやポスターなどを作成することで市制施行70周年に関する機運醸成に取り組みました。 ○市制施行70周年を記念として「出沒！アド街ック天国」の公開収録に向け観覧者の募集を行いました。 ○ドローンを活用した記念映像等の放映に向けて、デジタルサイネージの設置位置や動画の活用方法について検討を行いました。 ○時宜に応じた市の魅力発信を行うため、市報で調布の歴史を紹介する調布すごろく、また、調布花火や東芝プレイブルーパス東京の優勝などを掲載しました。 ○職員の多様な能力を活用し、市報やYouTubeで市の施設や業務内容等について紹介しました。 ○調布駅前のデジタルサイネージの設置に向けて、仕様内容の検討や仕様書の作成を行いました。	
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)	○
【後期における取組の方向性】(ACTION)	
○市制施行70周年記念式典での放映に向け記念映像の撮影や編集に加え「地球の歩き方 調布市」の校正を行います。また、記念ロゴを活用したプレゼントキャンペーンを行うなど市制施行70周年に関する機運醸成に取り組みます。 ○空撮映像等の放映を行うデジタルサイネージを購入します。 ○調布駅前のデジタルサイネージの設置に向けた契約・整備など行います。	

後 期	
【取組計画】(PLAN)	
○市制施行70周年記念要覧、映像、ロゴ、空撮などを活用して市制施行70周年の機運醸成と魅力発信に取り組みます。 ○時宜に応じた特集ページを設けて調布の魅力発信につなげるほか、より分かりやすい市政情報の提供を行います。 ○様々な広報媒体を活用し積極的に情報発信します。 ○多様な能力を持つ職員などを活用した動画を市公式YouTubeチャンネルで配信することで、市の魅力発信に取り組みます。 ○報道機関に対して積極的な情報提供を継続し、調布の話題が多く取り上げられるように、創意工夫したアプローチを実践します。 ○調布駅前のデジタルサイネージの設置に向けた作業を行います。 ○調布駅広場口上屋の照明を活用した情報発信に取り組みます。 ○ドローンで作成した空撮映像を放映するためのサイネージを購入します。 ○市ホームページでの画像オープンデータの取組を継続し、市の魅力発信につなげます。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○市制施行70周年記念要覧として「地球の歩き方 調布市」を作成しました(初回限定特典にゲゲゲの鬼太郎オリジナルカバー付)。 また、市制施行70周年記念式典での記念映像の放映、記念ロゴを活用した記念グッズの作成(缶バッジやエコバッグなど)やプレゼントキャンペーンを行うなど、市制施行70周年の機運醸成と魅力発信に取り組みました。 ○市制施行70周年を契機にドローンで作成した空撮映像の放映を行うデジタルサイネージを秘書課に設置し、放映しました。 ○調布駅広場口にデジタルサイネージを設置し、市の魅力発信や市政情報を発信するための環境整備に取り組みました。 ○多様な能力を持つ職員などを活用した動画や東久留米市とコラボレーションした企画動画を市公式YouTubeチャンネルで配信することで、市の魅力発信に取り組みました。 ○調布駅広場口上屋の照明を活用し、各種事業に合わせた配色とすることで市民への情報発信に取り組みました。 ○報道機関に対して積極的な情報提供を継続し、調布の話題が多く取り上げられるように、内容に合わせたイラストや文字を記載することで創意工夫したアプローチを実践しました。	

総 括	
【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】(CHECK・ACTION)	
年次評価	A(計画どおりに進捗)
○市制施行70周年記念式典で記念映像を放映するほか、記念要覧として「地球の歩き方 調布市」を作成しました。また、記念ロゴを活用したプレゼントキャンペーンを行うなど市制施行70周年に関する機運醸成及び魅力発信に取り組みことができました。 ○市制施行70周年を記念として「出沒！アド街ック天国」の公開収録に向け観覧者の募集を行い、市民だけでなく全国に魅力発信することができました。 ○調布駅広場口にデジタルサイネージを設置し、各種SNS以外で魅力発信や市政情報を発信するための環境整備に取り組みました。 ○調布市職員と東久留米市職員がコラボし、YouTubeのショート動画を配信することで新たな魅力発信に取り組みました。 ○職員の多様な能力を活用し、市報やYouTubeで市の施設や業務内容等について紹介しました。	

方針	1	共創のまちづくりの実践	年度別計画 令和7年度	◆新文書管理システムの運用
基本的取組	1-3	市政情報の積極的な提供		◆非現用文書※の整理、修復、デジタル化の推進
プラン	6	適正な公文書管理・公文書のデジタル化推進		◆公文書のデジタル化の在り方検討・実施
担当課	総務課、関係各課			◆文書管理に関する研修等の実施
				◆オープンデータの先進事例や需要の把握、研究及び職員向け研修・説明会の実施
文書管理システムの運用や研修を通じて、適正な公文書管理事務を行います。また、文書管理システム更新の機会を捉えて、公文書のデジタル化を推進するとともに、電子決裁率の向上及び効率的な事務処理を進めます。あわせて、オープンデータの充実にに向けた取組を推進します。				

※非現用文書…保存期間が満了した公文書のこと。

前 期	
【取組計画】(PLAN)	
○文書管理システムを活用した公文書の適正な管理を進め、電子決裁率の向上に努めます。 ○劣化・破損が著しく、取扱いが困難な状態にある歴史資料を修復します。 ○改正した文書管理規則を周知し、公文書のデジタル化を進めます。 ○個人情報の適正な取扱い等に関する取組を実施します。 ○市が保有する公開可能なデータについて、オープンデータとして公開できるよう取組を進めます。 ○他自治体のオープンデータを参考に、市においてもオープンデータとして公開できるデータについて更に検討します。	
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)	
○文書管理システムにおいて、昨年度末に併用決裁を導入し、電子決裁率の向上を図るため、周知を行いました。 ○劣化・破損が著しく、取扱いが困難な状態にある歴史資料を専門業者への委託により修復しました。 ○個人情報の適正な取扱いに係る個人情報保護法の内容を周知するため、全職員を対象に動画視聴による研修を実施しました。 ○市が保有するデータのオープンデータ化を進めました。 ○公文書のデジタル化を進めるため、「公文書管理」をテーマにした公文書管理制度の研修会に総務課職員が参加しました。	
【年度別計画に対する今年度の進捗見込】(CHECK)	◎
【後期における取組の方向性】(ACTION)	
○文書管理システムにおいて、電子決裁率の向上を図るため、文書管理システムの運用基準を庁内に周知します。 ○前期に修復した歴史資料のデジタル化を実施します。 ○公文書の適正な管理を図るため、各部署に自己点検を依頼します。 ○個人情報の適正な取扱いを図るため、各部署で自己点検を実施するほか、監査を実施します。 ○市が保有する公開可能なデータについて、オープンデータとして公開できるよう取組を進めます。	

後 期
【取組計画】(PLAN)
○文書管理システムを活用した公文書の適正な管理を進め、電子決裁率の向上に努めます。 ○劣化・破損が著しく、取扱いが困難な状態にある歴史資料を修復します。 ○各部署のファイリング巡回点検を実施し、公文書の適正な管理を行います。 ○個人情報の適正な取扱い等に関する取組を実施します。 ○市が保有する公開可能なデータについて、オープンデータとして公開できるよう取組を進めます。 ○他自治体のオープンデータを参考に、市においてもオープンデータとして公開できるデータについて更に検討します。
【取組実績及び取組による成果・効果】(DO・CHECK)
○改正した文書管理規則に基づく電子決裁の原則や文書管理システムにおける併用決裁の活用等について庁内周知に取り組んだことで、電子決裁比率が大きく向上しました。 ○劣化・破損が著しく、取扱いが困難な状態にある歴史資料を専門業者への委託により修復するとともに、保存・活用に向けてデジタル化を進めました。 ○ファイリング巡回点検に代えて、各部署において文書管理に関する自己点検を実施しました。 ○個人情報の適正な取扱いに係る個人情報保護法の内容を周知するため、全職員を対象に動画視聴による研修を実施しました。また、情報漏えいの原因の一つである「ヒューマンエラー」をテーマとしたグループワーク研修を実施しました。 ○情報公開システムの更改及び刊行物等の電子的な公開を行う情報公開システムの導入に向けて検討を行いました。 ○市が公開するオープンデータの一部を、デジタル庁が推進するオープンデータの共通様式である「自治体標準データセット」に変換し、オープンデータとして、市ホームページに公開しました。

総 括	
【今年度の総括、次年度以降の取組の方向性】(CHECK・ACTION)	
年次評価	A(計画どおりに進捗)
○文書管理システムによる公文書の作成及び保存を推進し、職員への周知等を通じて、システムの適正かつ円滑な運用支援をすることで、電子決裁比率は、令和6年度の71.1%から令和7年度は88.8%まで向上しました。次年度も引き続き、公文書のデジタル化を通じて電子決裁比率の更なる向上を図ります。 ○個人情報保護制度や情報公開制度など、公文書の取扱いとあわせて、職員の意識啓発及び知識の醸成に取組みました。また、公文書のデジタル化を進めるため、文書管理システムにおける文書の電子化について周知しました。 ○歴史的価値のある文書を適切に選別し、目録作成したほか、修復を要する歴史資料を適切な保存の観点から修復・デジタル化を計画的に進めました。次年度以降も引き続き、保存期間を過ぎた文書から歴史資料を選別し、目録作成に取り組むほか、劣化などが進んでいる資料の修復・デジタル化を進めていきます。 ○情報公開システムの更改及び刊行物等の電子的な公開を行う情報公開システムの導入を進め、情報公開を総合的に推進します。 ○東京都カタログサイトや市ホームページにおいて、オープンデータの積極的な公開・更新を進めることができました。市民や事業者等が利用しやすい形式でのオープンデータの公開は、デジタル化の進展などの社会状況の変化に即した、より効果的な情報提供を行う必要があり、次年度も引き続き、東京都をはじめ、他団体の取組や先進事例を参考に、取組を進めます。	